

南雲版 びっくり10大予想
2016年版大検証会九星波動研究家
南雲紫蘭

早いもので2016年も2カ月を切りました。思えば波乱の多かったこの10か月、2016年1月11日号に掲載した「2016年南雲版10大びっくり予想」も振り返る価値がありそうです。

そもそものサプライズ、本家「びっくり10大予想」の創始者のバイロン・ウィーン氏によれば「一般には3分の1の生起確率しかないと思われているが、自分にとっては50%以上である事象」と定義されています。もっともご本家の予想は有名になるにつれてあまり面白いサプライズを出せなくなり、人気も下がりました。さて、それを他山の石とし、大胆なサプライズを提出してみたのですが……、さて、結果や如何に。

予想①：トランプ大統領誕生！米株・米ドルは大幅安に

既存の政治家に対する不満を集めて共和党予備選のトップを走る「不動産王」ドナルド・トランプ氏、本選に進出して民主党のヒラリー・クリントン前国務長官とよもやの激戦を繰り広げます。一時はありえないほどのトランプ氏の自爆っぷりに、「もう勝負あった」と思われましたが意外や意外、選挙当月にFRBが再びクリントン氏の調査を再開するというではありませんか。

当時のマーケットはクリントン氏の勝利を予想し「共和党候補選でもトランプ氏は勝てない」と見ていました。しかしながら、当方は「意外や意外、予備選ではトランプ氏が圧勝」と予想し、ここまではしっかりと当たっています。この予想記述は「…市場は疑心暗鬼となり、ドルの大幅安へと繋がります」と続きます。

これは当たらなければ幸いなのですが…。

予想②：FRB利下げに方針転換！利上げは歴史的失策に

1月の予想ではこう記述しました「中国景気が奈落の底に落ち込み、原油安が止まらない中、米準備制度理事会(FRB)のイエレン議長はもう一度利上げに踏み切りますが、株価急落や景況感の悪化が止まらず、夏には利下げに転じます」。

2016年10月末現在、一度の利上げにも踏み切って居ません。まさかイエレン議長もここまでマーケットが不透明とは思わなかったのかもしれませんが。逆を言えば、ここまで延命したともいえるわけで、この予測は痛み分けというところでしょうか。

予想③：アベノミクス不発！円高/日経1万5千円コース

1月は「環太平洋経済連携協定(TPP)の大筋合意や、法人実効税率の前倒し引き下げ等、アベノミクスは着実に進んでいる方針もある一方で、目先はデフレ効果の大きい成長戦略への評価が大きく悪化します。折りしも為替相場は円高となり、それも相まって、安倍晋三首相への失望感が高まり、相場基調は本格的な弱気に転換。円高/株安が殊の外進行しそうです」と記述。

これは3月の「中間報告会」でも指摘したのですが、1万5千円、円高ともにこの予測はバッチリ的中したといえるでしょう。

予想④：迷走ECBは追加緩和出来ずユーロは大幅上昇へ

米国は金融緩和に転換、欧州は金融引き締めあるいは金融政策変更なしでユーロ高を予測したのですが、現時点ではこの内容は当たっていない、といえるでしょう。年を通してドル高ユーロ安進行といえる状況が続いています。

予想⑤：中東のアフリカ化で敵味方錯綜の大混乱状態に

1月予想は以下の通り「世界の警察であった米国が、騒乱の最前線から手を引き始め、イスラム教内でもスンニ派主体のサウジアラビアと、シーア派主体のイラン間の緊張で始まった2016年の中東は、これに加えてユダヤ教(イスラエル)、IS(イスラム国)等の軍事勢力が跳梁跋扈するアフリカ的な混乱の地となります。これまでエネルギー価格の高さで保たれてきた国家は、軒並み窮乏化するでしょう。これに露中米による世界のエネルギー覇権争いが加わり、各勢力の裏には陰謀が渦巻きます。20世紀

初頭に逆戻りした中東の存在によって、国際情勢は混迷を極めるでしょう」。

相場参加者には原油価格くらいしか興味が無いであろう中東情勢ですが、混迷を極めるシリア情勢を含め、概ね当たっているとは思いますが。ポイントは、米国の新大統領が出現するまでは、こうしたロシア主導を見られる混迷が続くそうだという事です。

予想⑥：民族・宗教運動の活発化で内戦が各地で相次ぐ

1月はここ数年の民族主義、非寛容的な宗教活動と排他主義の勃興に注目し「各国で自国民を高揚する愛国主義、民族主義、宗教運動と排他活動が活発化します。中東、中国、アフリカ…。これらの非寛容的な勢力は、お互いに相容れず、多民族国家や多宗教国家では、その排外主義による混迷や民族対立が激化します」と予想しました。

日本ではあまり報道されてはいませんが、シリア情勢のみならず、今もつと残虐を極める南スーダン共和国の内戦やナイジェリア、中央アフリカ共和国のキリスト教とイスラム教の先鋭化した対立、インドとパキスタンの国交断絶の危機、北朝鮮の危険な冒険等々、混乱は枚挙に暇(いとま)がありません。

これも、残念ながら予測が当たってしまったといえましょう。

予想⑦：民主主義の限界と21世紀の国家資本主義の出現

結局「超緩和」とは、富める者と貧しき者の格差を更に広げるだけであり、決定の遅い民主主義と生活保護等の悪平等が再び意識される点を指摘した上で、1月は「強力なリーダーシップによる「21世紀の国家資本主義」的な思想が再興します。米国のトランプ氏や、フランスの国民戦線(NF)人気は、決して一過性のもではなく、民族差別、人種差別、宗教差別等の「重層的差別構造」が生んだ鬼子のようなもののです」と予想しました。

この予測は当たっていたのでしょうか？

現時点では「よくわからない」というようにも受け止められます。ただ、先進国における中間層の荒廃、世界各国で増え続ける難民などの状況を鑑みると、このような暴力的装置を備える国家社会主義の誘惑は日に日に増加しているのではないのでしょうか。

予想⑧：英国がEU残留にNO！英ポンドは大暴騰

英国のEU離脱は完べきな予想でした。問題はその後記述「…国民投票で離脱支持が多数となり、一時的に英ポンドは売られますが、最終的には、欧州と距離を置いた事による英国は、安全な第二のスイスフランと評価され、暴騰します」の箇所です。

現在までのところ、英ポンドは長期低迷しています。これは筆者が歴史をちゃんと顧みなかったせいかもしれません。

過去実際に起こったのは「通貨同盟からの離脱はポンド安を通じて英国経済ならびに英国株式市場を上昇させる」です。この見込みがしっかりと述べる事が出来れば、完璧だったでしょう。

予想⑨：資源国・新興国通貨は脱中国で急落から急騰へ

執筆当時、対ドルで急落を続けていた新興国・資源国に対して「2016年は各地での軍備増強の動きや、実際に行われるであろう各地での紛争の影響によって、じりじりと素材価格が底打ちします。…後々になって「あそこで買っておけばよかった」という展開になるでしょう」と予測しましたが、全体を通じてみれば「的中半分、ハズレも半分」といったところでしょうか、実際の相場は前半こそ弱かったものの、その後はジリ高。世界経済の緩やかな回復で商品市況はしっかりとサポートされました。

問題は米利上げが想定以下のスピードであったため、いつまでもジリジリとドル高が続いてしまっている事。これだけは読み切れませんでした。

予想⑩：習近平失脚で中国は事実上の内乱状態になる

習近平氏の権力基盤はもう弱体化している、という観測も出ているのですが、実際の党大会では「中国共産党の核心」という毛沢東並みの称号を得るに至りました。この予想はハッキリ間違っていたといえます(現時点ですが)。しかし2016年の予想のうち、かなりの部分は実現してしまったといえます。

これは来年に向けて更に精進しなくてはなりません。

ガ・テクニカル

判らなくなった
米大統領選

外部要因に左右される日本株式市場。先々週まで好調であった日経平均だが、米国大統領選を前に、米連邦捜査局（FBI）がヒラリー・クリントン候補の私用メール問題について、捜査を再開したと連邦議会に伝え、翌週には世論調査の結果トランプ氏リードが伝えられたことでムードが一変。ダウ平均は11月2日の終値で18,000ドルを割り込んだ。日経平均も、リスクオフの円高も到来して続落、4日には17,000円を割り込んだ。

これまでのコメントは次の通り「ただ外部要因からのショック安の懸念は依然として拭えない。ここではNYダウがカギを握る。……テクニカルでは18,000割れは大陰線を伴う下げを示唆するが、…クリントン勝利で市場は動いている……強気派にとってはブレイグジットの二の舞にならないことを祈る」。

現段階ではクリントン圧勝ムードから一転、トランプ氏が巻き返し混戦模様、市場は一気に不透明感が増大した。

しかし先週もこう述べた「トランプ候補の勝利から来る

ショック安は日経平均ではまさに1年サイクルボトムになりえるので、急落は歓迎。絶好の買い場になるだろう」。

2000年のブッシュ／ゴア事件の如く、選挙結果をめぐる法廷闘争にならない限り、今週決着がつくだろう。

日経平均は1日に17,473円の高値を付けた後、冒頭で述べた外部ショックにより先週末の時点で16,800円台に入っている。

先週は次の通りコメントした「先週はチャネルライン上限に一旦は阻まれ、16,800円が最初の目標と述べたが、……次の上値抵抗として以前から述べていた今年1月のアイランドリバーサルギャップ17,684～17,515がテーマ。このギャップは4月に一度挑戦し阻まれた。週足引け値でギャップを埋めれば強気に傾かざるを得ない。それまでは目先の調整を想定。押し目の目処は17,094±123」。

相場はギャップの抵抗に阻まれた格好となった。押し目の目途をやや下回るまで反落したが、今週は前述した通り、米大統領選のビッグイベント。予想困難である。見送りとする。

今週の押し

レジスタンスポイント

ディズニーランドに隠れミッキーがいるように、米大統領選には「隠れトランプ」と「隠れトランプ」がいる。筆者は以前商品版投資日報の中で「トランプが大統領になるのは嫌だが、同性愛や妊娠中絶など今後司法判断が必要な諸問題がリベラル寄りの判断になるのはもっと嫌だ」という保守派の存在を指摘。これに反エスタブリッシュメント、反ワシントン勢力を加えた人々が「隠れトランプ」である。BREXIT騒動時“上”への怨嗟を持つ者達は投票所に行ったが、「どうせ残留」と判じた者は行かなかった。皮肉にも今回、米メディアは「どうせヒラリー」を演出し過ぎた。現在、選挙戦はFBI騒動で大騒ぎになっているが、逆に危機感が出て五分の勝負に戻ったといえる。

一方、米国在住の映画評論家町山智浩はトランプ大好き生粋の保守親父に随従する奥様が「隠れクリントン」になる可能性を指摘する。彼女たちは出口調査で必ずトランプに投票したと答えるだろう。しかし女性蔑視の発言を繰り返すトランプに、彼女達が果たして投票するだろうか。今回、出口調査と実際の投票結果が食い違う可能性があるとする氏の分析は興味深い。

金融市場は現在、メディアの煽りの反動で生じた「ひょっとしてトランプかも」の空気が充満している。株や米ドルが売られ、米国債や金、対ドルではユーロが買われている。

特にユーロに関しては2週間前から“昨年3月から2回、相場は19週ごとに安値をつけて反発しているの、日柄的には今週ないし来週、いったん節目をつけて反騰すると思われる。15日スローストキャスティクスも過度の売られ過ぎ領域まで達しており、短期的には買い参入が望ましい”と記述。実際に上昇しているのだが、不安感の表れかいささか上昇スピードが速い。先週末発表の10月米雇用統計はNFPが前月比16.1万人増。賃金の伸びも加速を示した事で一時ドルが買われる展開があったが「ひょっとしてトランプかも」の不安感の方が勝っている。

だが、当欄では以前から次の通り記述している“6月安値を割り込んだ事で現行相場は戻り売り。5月高値から大きなチャネルラインが引ける。恐らく大きく戻してもチャネルライン上限が限界。現在1.115付近にある移動平均価格がその手前のレジスタンスポイントになるものと考え”。

先週末4日の高値は1.1141でチャネルライン上限手前のレジスタンスポイントに差し掛かっている。不安感は恐らく投票日まで続く、その場合1.12付近までの上昇があるかもしれない。

ただ、トランプが勝つ確率は「どうせヒラリー」の空気が薄れると低くなると筆者は見ている。週初7～8日まで上昇しているようなら買いポジションは利食いするのが望ましい。

その上で、更に積極的に相場と対峙するなら売りを推奨する。ストップロス水準は1.1250以上の引け値に置き、ストップアウトした場合は損切りドテン買いに回るのが良いだろう。

今週の主な予定・経済統計

*米国とカナダは11月6日より冬時間に移行しています。

11月7日(月)

- ・日銀議事録公表（9月21～22日開催分）
- ・ユーロ圏財務相会合

11月8日(火)…上弦

- ・米国大統領選投票日

11月9日(水)

- ・米3年債入札（240億ドル）

11月10日(木)

- ・9月の米卸売在庫（横ばい予想、前月は0.2%増）
- ・米原油在庫（10月29日～11月4日の週）
- ・米10年債入札（230億ドル）
- ・米週間新規失業保険申請件数（前週は26.5万件）

11月11日(金)

- ・米30年債入札（150億ドル：入札合計は620億ドル規模）
- ・11月の米シガン大学消費者信頼感指数・速報値



今週の相場風林語録

意地商い皆向かえ(1)

市場で注目される筋が意地になって買ったり、意地になって売り崩そうとすることに遭遇した時は、それに向かっていることも必要。

今週の九星★波動

年盤・月盤一致の月

南雲 紫蘭

2016年も11月、余すところあと2カ月となりました。

前半のドル急落、円高は記憶に新しいところではありますが、思い返すと、今年ほどいわゆる「大統領」の威厳が問われた年は無かったのではないのでしょうか。

お隣、韓国の大統領は弾劾されそうなほどの危機とされていますし、史上最も不人気同士の対決とされる米大統領選挙も、ここへきてクリントン候補へのF R B捜査再開を受けて、トランプ氏との差は再び1ポイントに。

トランプ氏の失言や、あまりにも過激な言動は、どう考えても大統領にはふさわしくないのですが、それでも率直、過激というのはいつでも一定以上の人気を得ることが出来るのかもしれない。

そういう意味では、ブレグジットしながら「実は直前までだれが勝つかかわからない」というのが大統領選挙の本質かも知れません。油断大敵です。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (369)

中原 駿

上野は、いつものようにチェックインを済まそうとすると、後ろから声を掛けられた。

「お客様…」

見慣れたナショナル・フラッグの制服に身を包んだキャビン・アテンダントであった。

「お客様にお願いがございまして…、実はこちらの書類を到着した成田のスケジュールズにお渡しいただきたいのです」

お安い御用であった。

また、上野のような身元のはっきりした金融機関に勤務している人間がしばしばお願いされることでもあった。

第六感の ショック安の予行演習



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

不透明な米大統領選

先週の金融市場は、大統領選におけるショック安の予行演習のような相場であった。

クリントン圧勝ムードで進んでいた市場人気は、クリントンのメール問題が再燃、世論調査でトランプ候補がクリントン候補を1ポイントリードしたというニュースが流れ、市場に激震が走った。

米国株は急落、V I X指数（恐怖指数）が大きく上昇し、安全資産への資金逃避からリスクオフ状態となった。まさにブレグジットの再来を垣間見た感じだ。

ドル円のサイクルについては先週次の通りコメント「強気型サイクルになりつつあり、その目標値は以前から指摘した通り、106.68～107.80。現行サイクルではショック安がない限り、起点（9月27日100.09）を下回ることはいないと見る。無論ショック安とは11月8日大統領選でトランプ候補の勝利による市場の想定外の出来事」。

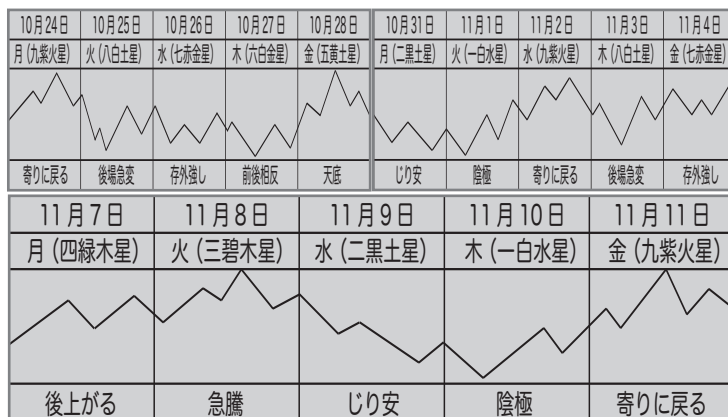
予行演習のようなショック安が到来し、ドル円相場は一気に102円台まで下落。この時期にF B Iがメール問題を蒸し返すとは、さすがに想定外であった。

今週は7～11週サブサイクルの6週目となるが、既にトップアウトしてボトムに向けた下落過程に入っているのか、あるいはもう一度上伸して高値を更新するのか、大統領選の結果に左右される。

さて油断大敵といえば、終局にやっとドル高が示現した月盤《三碧木星》も終わりです。

今週からは月盤は《二黒土星》。年盤も《二黒土星》なので、二黒土星の年のなかの二黒土星の月となります。通常、月盤・年盤一致は大きな値動きにつながりやすいものです。

用心には用心を。



中身は不明だが、おそらく重要な書類を運んでほしい、という依頼だ。その代り席が広くなったり、前になったり、場合によってはビジネス・クラスにアップグレードされたりするのだった。上野はもとよりビジネスで帰るつもりであったのだが、席の位置が随分良いところが変わっていた。

これも一つの役得といえる。シンガポールと東京を長く行き来するとたまには良いこともあるのであった。

上野は「やれやれ、また書類か。もう書類は見飽きたのだが…」と一人ごちたが、すぐに睡魔に襲われた。

久しぶりの東京、それも激務を終えたばかりというのが効いていたのかもしれない。目を閉じた、と思った瞬間には上野は夜の帷にとらわれてしまっていた。

夜は長い。だが、上野の疲れはもっと深く長いのであった。

サブサイクル事態は後半に入っており、たとえ、クリントン候補が勝利し、ドルが買われたとしても、そこでトップアウトする可能性もある。

つまり材料出尽くしで一旦は売られることになる。一方でトランプ候補が勝利すれば、秋のつるべ落とし状態。ブレグジットの再来となる。

ただ、ブレグジットと異なるのはこの時、結果が判明する5時間前に独立派が敗北宣言し、残留派勝利をほぼ100%近くまで市場が織り込んでいたことから、結果は青天霹靂の状態となってしまった。今回は依然としてクリントン候補がまだ有利と市場は受け止めているが、現段階ではどちらが勝利するか不透明。マーケットには近寄らない方が良くだろう。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第14回】NY原油のサイクルについて(1)

これまで株式、為替とサイクルを分析しました。今回はこれらと関連性の高いNY原油のサイクルを検証して行きましょう。

この相場の長期相場サイクルは18年、レンジは15～21年とされています。ここ十数年での最安値は1998年12月21日の10.35ドル。最高値は2008年7月11日の147.27ドル。ここから同月12月19日の32.40ドルまで下落。これで日柄は丸10年。



メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

予告編とサインチェンジの週

先週1日、日経平均株価は17,473円まで上昇後急落。ジオコスミック面で注目なのは、ここが先週指摘した「火星トランスレーション」の中の日本時間29日の火星・天王星スクエア(90度)と、「金星トランスレーション」の中の日本時間30日の金星・土星コンジャンクション(0度)から2営業日後であった点だ。

より重要視すべきは後者であろう。これは11月5日の金星・天王星ラインとワンセット。12月25日を皮切りに翌年5月19日、同年11月11日と都合3回形成される土星・天王星ラインを金星がなぞる事を意味する。これに関して先週はこう述べた「トランスレーションは時として実際に形成されるアスペクトの予告編のような役割を担う。ラインは天体の間の「調和のとれた」関係だが、裏返せば「相場の頂点」と関連性があるだけに、ここでも波乱の香りがする」。

確かに08年の安値は長期相場サイクルの節目でした。しかし、ここを18年サイクルボトムと判じるには日柄が足りません。

実際ここから7年2カ月後、98年安値から17年2カ月後の2016年2月11日に26.05ドルまで下落。従って、ここが長期18年サイクルのボトムであったと考えるべきでしょう。そうすると08年安値は9年ハーフサイクルの前半のボトム、今年2月の安値は後半のボトムであったと考えられます。9年サイクルのレンジは±1.5年なので、7年2カ月では若干日柄が足りないのですが、長期相場サイクルの最終局面で日柄はしばしば歪む(短縮か延長)ので、これは短縮ボトムであったと見ます。

仮にこれが予告編として機能するなら、年末から来年にかけての株式相場の「頂点」と「急落」と関連する可能性がある。

また、あくまで予告編であればこの株価下落は本格的な天井ではないかもしれない。11月6～16日まで「ヘリオ射手座ファクター」が発生。金やユーロは「当初は入居当日から4営業日前までに安値をつけてから数営業日急騰するパターンが多かったが、ここ数年はその逆パターン、即ち急上昇からの急反転も多く、場合によっては崩落の引き金を引いたケースも少なくない」と先週も述べたように、金やユーロが下落するようなら、逆に株式や米ドルは上昇する可能性が。来週は米大統領選投票日がある。

加えて今週は8～9日かけて火星が水瓶座に、11～12日にかけて金星が山羊座に、12日に水星が射手座にそれぞれサインチェンジ。往々にして惑星サインチェンジは反転ポイントになりやすい。これが3つまとめて来る今週はその可能性がある。

しかし、波乱なく相場が先週の流れを引き継がれるようなら、恐らく月末までこの流れは続くのではないだろうか。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

- 11月07日(月) 様子見
- 11月08日(火) 米大統領選挙波乱要因 疑惑
- 11月09日(水) 材料出尽くしに注意
- 11月10日(木) 気迷い症状
- 11月11日(金) NY市場転換点
- 11月12日(土) 最近の相場は材料出尽くし前に終わる
- 11月13日(日) チャートはこれから犯す失敗について教えてくれる

世界No.1ヘッジファンドのマクロ経済分析

マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート

The Gloom, Boom & Doom Report

ヘッジファンドランキング1位をたびたび記録した男が世界市場のマクロ経済を読み解く

グロム・ブーム・ドゥーム(GBD)とは、景気、景気、破滅を意味している。GBDレポートは全世界の主要な投資機会に着目した格付けファイナンシャルレポートである。ホラティウスの詩論の言葉どおり、得意のとき人々にある者はやがてよみがえり、得意の絶頂にある者はやがて没落する。本レポートの目的は、特定の投資アイデアやスキームを勧誘することではなく、社会的なトレンドを投資家に警告し、短期、中期投資戦略など、次の投資チャンスを提示することである。購読者は、自ら金融機関へ依頼して高倍率で、多くのさまざまなアセットクラスに投資できる場所と期間がある。これまで、債券、商品、不動産などいろいろな分野で投資を推奨してきたが、多くの購読者はそれを活用している。

【配信方法】 電子メールにて月1回配信(最新版は毎月15日頃に配信)
 【料金】 1か月 本体 10,000円(税込 10,800円)
 ※このレポートは、お客様が解約の手続きを行うまで自動継続されます。
 【販売・配信】 Traders Shop / ハンローリング株式会社

お申し込みはこちらの短縮URLから【Traders Shopお申し込みページ】へ <http://goo.gl/6efiPM>

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。
 Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

フォーキャスト 2017

アストロロジーとサイクルで
 2017年の相場を読み解く究極の書

「サイクル」「アストロロジー(占星学)」「テクニカル」
 この3本柱で2017年の動向を予測！

アストロロジーでは2017年の水星および金星逆行の解説に加え、有力政治家の出生図やFRB、NYSE、そして米国の始原図から予測。主要天体位相の発生時間と始原因とを重ね「何故この時期は重要なのか」を説明。「フォーキャスト2017」目玉解説の土星・天王星ウィニングスクエアは終了したが、その影響は2017年中もまだ残る。メリマン氏はこの点を「世界無責任時代(ただし、もれなくスケープゴート付き)」という副題をつけて「土星はコントロール、統御を意味する。特に、政府や金融界のリーダー達のように権力の座にある人々が持つ、統御への欲求・衝動を象徴。しかし天王星は境界など知らない、とりわけ境界線、限界、統御という意識が欠落している。…状況が制御不能となりヒステリー状態になっていくという一連の反応は、何も中央銀行とインフレーションの問題に限ったことではない」と述べていた。2016年に起きた事象は「制御不能」と「無責任」という言葉は非常に的確だった。

恐らくこのスクエアの解説も行いつつ、次の一手が予測されるのではないだろうか。

幾つかの主要相場では長期相場サイクルの節目に入っており、アストロロジーとサイクル、どちらでも必読の内容となるだろう。

レイモンド・メリマン 著 秋山日暉香・投資日報編集部 訳
 投資日報出版発行 8100円(税込・送料別)

12月26日発売予定 予約受付中！

簡単・便利な「投資日報オンラインショッピング」もご利用ください。

お問合わせ: 投資日報出版(株) <http://www.toushinippou.co.jp/>

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-12-11GRANDE 人形町 6F 電話: 03-3669-0278 FAX: 03-3668-4444